

平成30年度 陽西中学校 学校評価書

1 教育目標（目指す生徒像含む）

（1）基本目標

人間尊重の精神を基盤に、個性豊かで情操に富んだ人間として、平和で民主的な社会の発展に貢献できる生徒を育成する。

（2）具体目標（具体的な児童生徒像）

- 敬愛の心があつく心情豊かな生徒
- よく考え主体的に行動できる生徒
- 体力・気力の充実した健康な生徒

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

心豊かでたくましく生きる人づくりを推進するための指針として策定された「とちぎ教育振興ビジョン」や「うつのみや学校教育スタンダード」等を踏まえ、21世紀を生きる生徒に必要な能力や態度を育むため、教育内容の充実、学校運営の改善、教育環境の整備、新たな学校教育システムの構築に努め、新しい時代にふさわしい学校教育を進めます。

3 学校経営の方針（中期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

（1）学力向上のために

- ① 指導方法の工夫改善により、対話を通した主体的で深い学び実現する。
- ② 習熟に応じた支援や学習形態などの工夫により、生徒一人一人に「わかる授業」を展開する。
- ③ 教材やICT等を活用し、興味関心の喚起・持続や集中力を高めた授業を展開する。
- ④ 50分授業と授業時数を確保し、深く考える授業を展開する。
- ⑤ 放課後学習や土曜日学習を行い、学力補充に努める。
- ⑥ 適度な宿題と自主学習ノートの活用で、家庭学習の習慣を図る。
- ⑦ 全校一斉読書活動を充実させる。

（2）いきいきとした学校生活のために

- ① 時と場に応じた挨拶やマナーの習得ができるよう努める。
- ② 心の教育を通して、生命や人権を尊重する態度を育て、いじめを許さない集団づくりに努める。
- ③ リーダーを育成し、生徒相互が互いに支えあう集団作りに努める。（ピアサポートプログラム等）
- ④ 問題行動や集団に適応が困難なには、保護者と連携して適切な支援に努める。
- ⑤ 小学校や地域、関係機関と連携し、個に応じた適切な生活支援を行う。
- ⑥ 特別な支援の必要な生徒への支援体制を整え、誰もが居がいの学級づくりに努める。
- ⑦ スクールカウンセラーやメンタルサポーターから保護者への適切な支援に務める。

（3）開かれた学校づくりのために

- ① 学校紹介パンフレット、HP、学校公開等を活用した「知ってもらう運動」を実施する。
- ② 地域活動に生徒をボランティアとして参加させるなど地域と共にある学校づくりを推進する。
- ③ PTAと連携し、研修会や保護者会において、共に学びあえる関係づくりに努める。
- ④ 保護者や地域に向けて、積極的に情報発信・提供をし、授業や学校評価の公開をする。

（4）健康や体力の向上のために

- ① 保健体育や家庭科、給食指導やお弁当の日を充実させ、バランスの取れた食事とよりよい食習慣の確立を目指す。
- ② 地域の実態に応じた交通マナー、防犯意識が身に付く訓練等を充実させる。
- ③ 喫煙、飲酒、薬物等の防止教室や性教育講座を、専門家を活用して実施する。
- ④ 「元気っ子健康体力チェック」の結果から保健体育や部活動での体力作りを行う。
- ⑤ 生徒の健康体力の情報を保護者に提供し、家庭と連携を図りながら生活習慣の改善を進める。

（5）社会性をはぐくむキャリア教育の推進のために

- ① 学校生活の様々な場面で課題を自力解決する活動を通して、自分の適性を理解し、確かな自信をもてるようにする。
- ② 自己の「夢と希望」をもって、その実現に向けた目標を掲げ、粘り強く努力できるようにする。

- ③ 近隣の、高校、企業、保護者・地域住民とつながる情報発信・提供を工夫し、体験活動の幅を広げる。
- ④ 社会の第一線で活躍する方を招聘し、その生き方に触れるとともに、自己の生き方を考えさせる取組を推進する。

【陽西地域学校園教育ビジョン】

自己の「よさ」を活かし、粘り強く頑張る子どもの育成
～社会的自立を目指すキャリア教育を通して～

4 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- 【学 校 運 営】社会性を育むキャリア教育の推進
- 【学 習 指 導】一人ひとりの学習意欲が高まる「わかる授業」の展開と進んで学習する生徒の育成
- 【児 童 生 徒 指 導】思いやりの心を持ち、決まりを守る生徒の育成
- 【健康（保健安全・食育）・体力】健康を大切に、元気に生活する態度の育成

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評 価
学校運営の状況	A 1 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】全体アンケート「私は学校が好きです」→生徒の肯定的回答 85%以上	① 学校行事等を通して、生徒が目的意識をもって協力しながら主体的に活動して達成感や自己肯定感を得られるような場を設定し、活動を支援する。 ② 生徒会活動を通して、生徒の自主的な活動を推進するとともに、委員会活動の活性化を図る。 ③ 学級経営や教育相談を充実させ、「居がい」のある明るい学校づくりに努める。	B	【達成状況】 ・様々な学校行事が生徒主体に実施されており、活気のある学校づくりが行われているので、生徒の肯定的回答 86.1%と目標を達成した。 【次年度の方針】 ・生徒が目的意識をもって主体的に活動することにより、自己肯定感の向上を図るとともに自己有用感を感じ取ることができるような場を設定し、活動を支援する。 ・生徒会活動、委員会活動の活性化を図る。 ・別室登校、不登校対策としての学級経営、教育相談等の充実を図る。
	A 2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】全体アンケート「教職員は協力し、教えるべきことを熱心に指導している」→保護者の肯定的回答 85%以上	① 学習や活動のねらいを明示し、授業の中で、出来た喜びや成就感を実感できる場や機会を意図的に設けるなど、指導法の工夫改善をする。 ② 「『対話』を通した主体的で深い学びの実現」を重点目標として、全職員で授業研究を推進し、個々の教員の授業力の向上に努める。	B	【達成状況】 ・今年度も「対話」を意識した授業づくりに視点を置き、授業公開や授業研究会を数多く実施した。全職員一丸となって授業の質的改善と授業力の向上に努め、保護者の肯定的回答が 87.7%と目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・日々の授業の積み重ねを大切に、全職員で授業研究を推進し、さらに個々の教員の授業力の質的改善と授業力の向上に努める。

A 3 生徒は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】全体アンケート「生徒は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している。」→保護者の肯定的回答 85%以上	① チャイム着席、授業の開始・終了時のあいさつや、場に応じて考えた行動を行わせるとともに、服装や姿勢を整えて授業を受けるよう指導する。 ② 教職員の共通理解、共通指導の充実を図る。さらに、きまりの遵守やマナー向上の意識を高めさせる取組を教科指導はもちろん、生徒主体で行うようにさせるなど、内容を工夫して実施する。	B 【達成状況】 ・全体的に見ると、多くの生徒はきまりやマナーを守って生活できているが、正しい判断ができないなど課題がある生徒も多い。保護者の肯定的回答は 82%であり、目標を 3%下回っている。 【次年度の方針】 ・教職員の共通理解・共通指導の充実を図る。 ・きまりの遵守やマナー向上の意識を高めさせる取組を、生徒会活動を主体として実施する。 ・道徳科の指導を通して法の遵守や公共のマナーについて考えさせる。
A 4 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】全体アンケート「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」→生徒の肯定的回答 85%以上	① 個に応じたきめ細かな指導を行い、数学科及び英語科における習熟度別学習や T・T など指導形態を工夫し、学力を向上させる。 ② 日々の授業で、学びのサイクル「つかむ」「学び合う」「まとめる」「振り返る」の効果的な活用を心がけ、生徒が主体的に深く考え、取り組めるような授業の展開を実践する。英語科・数学科では、習熟度別学習や T・T などの指導形態を取り入れ、個に応じた指導に当たる。	B 【達成状況】 ・授業ごとの「本時のねらい」「本時のまとめ」の提示、「学び合い」「振り返り」の適切な位置づけを実践し、英語科・数学科では習熟度別学習や T・T などの指導形態を工夫した。今年度は「ユニバーサルデザインの視点」を生かした授業づくりを実践し、より分かりやすい授業を心がけた結果、生徒の肯定的回答が 89.0%と目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・日々の授業で、学びのサイクル「つかむ」「学び合う」「まとめる」「振り返る」の効果的な活用を心がけ、生徒が主体的に深く考え、取り組めるような授業を実践する。英語科・数学科では、習熟度別学習や T・T などの指導形態を取り入れ、個に応じた指導に当たる。
A 5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】全体アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」→生徒の肯定的回答 85%以上	① いじめはどの生徒にも起こりうる」との認識の下、未然防止の取組の充実を図り、いじめの起こらない環境づくりに努める。 ② 生徒が相談しやすい環境を整備するとともに、教職員は生徒理解を深め、信頼関係の構築に努力することで、いじめの早期発見に努める。 ③ いじめ防止対策についての取組をより充実させる。さらに、教職員のいじめ防止に対する意識といじめに関する対応力を向上させるために校内研修を充実させる。	B 【達成状況】 ・生徒主体のいじめ根絶集会や、全生徒によるいじめゼロ標語コンクールなど、未然防止の取組の充実を図った結果、生徒の肯定的回答 94.2%と目標を達成した。 【次年度の方針】 ・教職員がより人権感覚を磨き、いじめ防止に対する意識といじめへの対応力を向上させるとともに、生徒との信頼関係をしっかりと構築する。 ・ピアサポートの取組を推進し、リーダー育成を図るとともに、生徒同士が互いに支え合って生活する態度の育成を図る。

A 6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている。 【数値指標】全体アンケート 「学校の日課、授業、行事などの教育課程は、適切に実施されている」→教職員の肯定的回答 85%以上	① 定期的に主任会を開催し、行事などの日程調整及び進捗状況等を確認し合うとともに、教科部会との連携を図り、教育課程の適切な実施に努める。 ② 実授業時数を確保するため、週案による時数点検をするとともに、出張の際はできるだけ授業交換を行うようにして、実授業時数の確保に努める。	【達成状況】 ・学年主任会等で、行事の進捗状況の説明を行い、共通理解を図り、スムーズな進行管理を行うことができた。また、週案による授業時数点検を実施した。教育課程が適切に実施され、教職員の肯定的回答は 100%であった。 B 【次年度の方針】 ・学校行事の事後アンケート等を分析して、これまでの取組を再検討するなど、より良い教育課程の運営を図る。 ・週案による時数点検をして、実授業時数を確保するように努める。
A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われている。 【数値指標】全体アンケート 「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信提供している」→保護者の肯定的回答 85%以上	① 学校HPをさらに充実させ、積極的な情報発信・提供に努める。 ② 土曜授業において、道德の公開授業および各教科・領域にわたる、生徒の主体的、対話的な活動が見られるような授業公開を行い、保護者の理解と協力が得られるようにする。	【達成状況】 ・学校HPで、学校行事等の情報提供を確実に行ったり、各種だよりを定期的に発行したりしたことにより保護者の肯定的回答 94.4%と目標を達成した。 B 【次年度の方針】 ・学校行事後3日以内にHPにアップするなど、リアルタイムに情報提供ができるように努める。 ・生徒の主体的、対話的な活動が深い学びにつながるような授業づくりに努め、その成果を公開授業等で発信していく。
A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った学校づくりが推進されている。 【数値指標】全体アンケート 「学校は家庭地域企業等と連携協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」→教職員の肯定的回答 85%以上	① 望ましい職業観や勤労観を養うために、地域や家庭、外部機関や企業等との連携・協力を深めた授業や体験活動を行う。 ② 「よさこい踊り」やわかくさ特別支援学校との交流、地域のボランティア活動等を継続、充実させ、地域のよさを感じ取ったり地域の一員としての自覚を高めたりさせる。	【達成状況】 ・社会の第一線で活躍している方を講師とした Will び 講演会の実施やハローワークや新聞社等との連携を図った取組を行った。教職員の肯定的回答 97.9%と目標を達成した。 B 【次年度の方針】 ・望ましい職業観や勤労観を養うために、地域や家庭、外部機関や企業等との連携・協力を深めた授業や体験活動を行う。 ・多くの地域ボランティア活動等へ積極的に参加することを継続しながら、地域のよさを体感できる手だてを講じていく。
A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】全体アンケート 「学校は、荷物や備品が整理整頓されるなど、学習しやすい環境である」→保護者肯定的回答 85%以上	① 安心・安全な学習環境をつくるため、定期的に安全点検を実施し、修理、修繕等を迅速に実施する。 ② 廊下や学習室等に学習関連の資料や学校の取組を紹介する掲示コーナーを設け、その充実を図る。 ③ 清掃指導の充実を図り、生徒一人一人がより良い環境を作っていくとする意識を育てる。	【達成状況】 ・整理整頓、掲示、植栽等、教育活動を行う環境が整っており、92.7%と目標を達成することができた。 B 【次年度の方針】 ・定期の安全点検のさらなる充実のために、安全点検表を見直し、迅速な修理修繕に活用する。 ・清掃後の反省会の方法を統一することで、共通した指導が行えるようにし、生徒の自主的に清掃に取り組む姿勢を強化する。

教育活動の状況	生徒	A10 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】全体アンケート「学校は、小学校と中学校が連携した取組を主体的に行っている」→教職員の肯定的回答 85%以上	① 小中一貫教育について職員がさらに理解を深め、生徒や職員の交流や連携による実践を行う。 ② 小中一貫各部会の研修機会を増やし、計画的に連携を図っていく。また、各部会の重点目標を設定するだけでなく、望ましい学習習慣や生活習慣の育成など、中学校入学までに達成してほしい内容を目標として設定することにより、小中の連携をさらに図っていくようにする。	【達成状況】 ・計画的に、各部会、小中乗入授業、夏季休業中の大学教授による講演会などを実施した。教職員の肯定的回答 91.7%と目標を達成した。 【次年度の方針】 ・教職員が小中一貫教育のビジョンの理解を深め、学校園の児童生徒の実態に基づいた小中共通の取組を行っていく。 ・地域学校園の児童生徒の課題を各部会でしっかりと把握し、解決のための取組を小中連携して行っていく。特にキャリア教育と学力向上については、新リーフレットを活用して、重点目標の達成を目指した実践を行っていく。
		A11 多様な専門性を有する学校スタッフの活用により、教員の業務が縮減されている。 【数値指標】全体アンケート「多様な専門性を有する学校スタッフの活用により、教員の業務が縮減されている。」→教職員の肯定的回答 80%以上	① SC, MS, かがやきルーム指導員等との連携を強化して、学校生活不適応生徒の指導を行い、不登校生徒の減少に努める。 ② 教育相談部会や校内研修等では、SC等の専門性を生かした活用の仕方を工夫し、指導の充実を図る。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 60.4%で、目標を 19.6%下回っている。多様な専門性を有する学校スタッフの存在が、生徒の指導に大いに役立っているが、教員の業務の縮減にはつなげていない。 【次年度の方針】 ・働き方を改善していくために、より効率的な活用の仕方を工夫していく。 ・学校スタッフの専門性を職員に周知して、チームの一員としてどのような役割を担えるかを検討し、指導の充実を図る。
		A12 教員は多様な専門性を有する学校スタッフと円滑なコミュニケーションが図れている。 【数値指標】全体アンケート「教員は多様な専門性を有する学校スタッフと円滑なコミュニケーションが図れている。」→教職員の肯定的回答 80%以上	① SC, MS, かがやきルーム指導員、学校図書館司書業務嘱託員等との連携を強化して、生徒の状況の把握に努める。 ② 配慮を要する生徒について、多様な立場や観点からの生徒の見取りを指導に生かす。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は、81.3%で、目標を上回った。専門性を有するスタッフとのコミュニケーションは、概ね良好である。 【次年度の方針】 ・それぞれの立場の学校スタッフの専門性や役割を職員に周知して、積極的な活用を図る。 ・副校長を中心に、職員間の連携を図るとともに、各種便り等で生徒や保護者等への広報に努める。
	生活	A13 生徒は、進んであいさつをしている。 【数値指標】全体アンケート「生徒は、時と場に応じたあいさつをしている」→保護者の肯定的回答 80%以上	① 心のこもったあいさつの仕方についての指導を充実させるとともに、本校のよき伝統として継承していく。 ② 日常生活の中でのあいさつ指導に加え、生徒会各委員会や部活動等、生徒主体のあいさつ運動を推進する。	【達成状況】 ・生徒主体のあいさつ運動や地域学校園合同あいさつ運動等の取組により、あいさつの活性化を図った結果、保護者の肯定的回答 83.3%と目標を達成した。 【次年度の方針】 ・今年度の活動をベースにして、さらにあいさつ運動を充実させるとともに、場に応じたあいさつの仕方が身につくように指導する。

健康・体力	A14 生徒は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】「生徒は、時と場に応じた言葉づかいをしている」→教職員の肯定的回答 80%以上	① 授業や部活動等、日常生活のさまざまな場面で、時と場に応じた適切な言葉づかいについて指導する。 ② 教職員が率先して適切な言葉づかいで生徒に接するようにして、生徒、教職員がともに人権に配慮した言葉づかいができるよう心掛ける。	【達成状況】 ・日常的に適切な言葉づかいについて指導を継続したが、教職員の肯定的回答 50%と目標値を大きく下回り、課題が残る結果となった。 B 【次年度の方針】 ・教職員全体が、共通認識・共通指導の下で適切な言葉づかいについて指導できるようにする。 ・道徳や学級活動で言葉づかいに関する題材を扱い、生徒の意識化を図る。
	A15 生徒は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】全体アンケート「生徒は、休み時間や放課後などに進んで運動している」→生徒の肯定的回答 80%以上	① 体育祭や学年ごとの球技大会等の行事に合わせて、学年・学級ごとの昼休みの外遊びや練習を推奨する。 ② 学級ごとに、ボールや長縄等の貸し出しを行い、特に女子生徒の外遊びを促す。 ③ 体育の授業や部活動開始時に、基礎体力をつける活動を取り入れる。	【達成状況】 ・計画的なスポーツ大会の実施や体育館開放等の取組により、生徒の肯定的回答 76.1%と目標は達成できなかったものの、昨年度に比べ 6%数値が上がった。 B 【次年度の方針】 ・来年度も昼休みの体育館開放を継続する。より実効性のあるスポーツ大会の実施や体育館利用の方法等を工夫し、さらに進んで運動することを習慣づけたい。
	A16 生徒は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】全体アンケート「生徒は、好き嫌いなく給食を食べている」→生徒の肯定的回答 80%以上	① お弁当の日に向けての指導や調理実習を通して、バランスよく食べることの重要性について考えさせる。 ② 「給食カレンダー」の放送を継続し、好き嫌いなく食べようとする意識の向上を図る。放送内容を担任・副担任からも確認し、意識を高め、実践につなげる取組を行う。	【達成状況】 ・学校全体で食育は積極的に推進しているが、生徒の肯定的回答 75.6%と目標には至らなかった。昨年度の 72.0%と比較すると、上昇傾向にある。 B 【次年度の方針】 ・学級による指導の差を解消し、学校全体で食に関する意識の向上を図るため、給食時間の確保、給食の効果的な配膳方法などについて、指導を強化していく。
	A17 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート「生徒は、授業中に進んで話し合うなど、積極的に学習している」→生徒の肯定的回答 80%以上	① 「対話」を意識した授業づくりに努め、「学び合う」ことで学習が深められるような授業の展開を工夫し、実践する。 ② 定期テストの結果分析をして、教科ごとにつまずきのあった内容の補充プリントを作成し学習支援を行う。 ③ 自主学習ノートの指導を通して、家庭学習の習慣化を図る。	【達成状況】 ・「対話」を重視した授業づくりに努め「学び合い」活動を多く取り入れた。また、家庭学習の習慣化を図るために自主学習ノートの指導を行ったことにより、生徒の肯定的回答が 85.5%と目標を達成することができた。 B 【次年度の方針】 ・次年度も、今年度以上に「対話」を意識した授業づくりに努め、「学び合う」ことで学習が深められるような授業の展開を工夫し実践する。 ・「より良い話し合い活動」のスタイルをパターン化し、全教員が共通理解の上実践していく試みを行う。

本校の特色・課題等	A18 生徒は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート「生徒は、授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している」→保護者の肯定的回答 80%以上	① 全教科において学習習慣の徹底に努める。「話を聞く」「考える」「学び合う」「発表する」などの活動を適切に位置づけ、それぞれの活動に主体的に取り組ませる。 ② 教材や発問、話し合う場の設定の工夫をし、進んで学習に取り組む態度を育てる。 ③ 教師の授業力向上に努める	【達成状況】 ・全般的には落ち着いた状況で授業が実施できているが、昨年度に比べると、授業準備が不十分な生徒や指示が徹底しない生徒が多く見受けられた。肯定的回答は、保護者 79.6%、生徒 71.8%、教職員 70.8%であった。いずれも昨年度より下回っており、目標を達成することができなかった。 【次年度の方針】 ・年度初めから全教職員共通理解のもと、全教科において学習規律・学習習慣の徹底に努める。「話を聞く」「考える」「学び合う」「発表する」などの活動を適切に位置づけ、それぞれの活動に主体的に取り組ませる。
	A19 生徒は、地域でのボランティア活動や行事に参加している。 【数値指標】全体アンケート「生徒は地域でのボランティア活動や行事に参加している。」→生徒の肯定的回答 80%以上	① 生徒の自主性を育てるために、全校生徒からボランティアを募集して、自己有用感を育てる。 ② 学校だよりやHP、校内の掲示物等を通して、活動の様子や生徒の感想等を広く知らせるようにする。	【達成状況】 ・活動によっては、人数が募集人員を下回り、積極的に参加した人数が少なかったこともあり、生徒の肯定的回答 77.8%と目標を達成できなかった。 【次年度の方針】 ・継続的にボランティア活動を行うが、さらに積極的に活動できるように、活動内容の精選が必要である。宿泊行事等の学校行事の翌日など、活動が日程的にも厳しいものは調整する。 ・活動報告だけでなく、参加を促すために、事前にPRをするなどの工夫をする。
	B1 学校は、学力向上のための特色ある取組を推進している。 【数値指標】全体アンケート「学校は、授業のほかにも、さまざまな学習の場を工夫して設定し、学力向上に取り組んでいる。」→生徒の肯定的回答 85%以上	① 基礎学力の定着、学力の向上を目指して、前年度と同様に、陽西タイム、水曜日の朝の学習・放課後のレベルアップ学習、夏休み学習サポート、土曜日学習サポートを実施する。実施方法に改善を加え、より効果的な運営に努める。 ② 地域協議会と連携した、学力向上のためのサポート事業を企画、運営する。	【達成状況】 ・陽西タイムの実施や希望者対象の水曜日の朝の学習・放課後のレベルアップ学習、夏休み学習サポート、土曜日学習サポート等、多くの取組を行った結果、生徒の肯定的回答が 91.2%と目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・更なる基礎学力の定着、学力の向上を目指して、前年度と同様に、陽西タイム、水曜日放課後のレベルアップ学習、夏休み学習サポート、土曜学習サポートを実施する。特に地域協議会と連携した土曜学習サポートについては、実施方法に改善を加え、より効果的な運営に努める。
	B2 教職員は、教育的愛情を基盤とした積極的な指導を行っている。 【数値指標】全体アンケート「教職員は、生徒のよいところを認め、指導すべきところはしっかり指導している。」→生徒の肯定的回答 85%以上	① 生徒のよさに注目した、積極的な言葉かけを行い、生徒の自己肯定感を高める。 ② 学習情報システムの「日々の様子」等を活用して、教職員の情報交換や連携を密にして、個に応じた支援や丁寧な指導ができるように努める。	【達成状況】 ・教職員が生徒理解に努め、きめ細かな指導を継続した結果、生徒の肯定回答 90.7%と目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・生徒指導部会や教育相談部会等を活かし、生徒の情報交換や教職員間の連携をより充実させ、より個に応じた丁寧な指導ができるように努める。

B3 生徒は、学校行事に積極的に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート 「生徒は、体育祭、文化祭、地域ボランティア活動に積極的に参加し、協力し合って活動している。」→教職員の肯定的回答 85%以上	① 自主的・実践的な態度を育むため、体育祭や文化祭等の学校行事に、生徒の意見や創意工夫を取り入れたものとする。 ② 地域のボランティア活動を推進するための働きかけを積極的に行うとともに、活動の成果を掲示するなどして、生徒の自己有用感を高める。	【達成状況】 ・生徒の自主的・実践的な態度を育むように、行事の精選を行い、計画的に実施できたことから教職員の肯定的回答 95.8%と目標を達成することができた。 B 【次年度の方針】 ・自主的・実践的な態度を育むため、体育祭や文化祭等の学校行事を、実行委員会主体で実施し、生徒の意見や創意工夫を取り入れたものとする。 ・ボランティア活動を積極的に行い、活動の成果を掲示するなどして、生徒の自己有用感を高める。
B4 学校は、生徒の心を育てるための環境整備に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート 「学校は、教室や廊下の掲示物を工夫したり花壇を整備したりして、環境美化に努めている。」→保護者の肯定的回答 85%以上	① 生徒の心を育てるための、フラワープロジェクトを推進する。 ② 美化委員会及び、各学年委員会を中心とした役割分担を明確にして、主体的に活動に携われるようにする。 ③ 各学年フロアの掲示物を工夫しながら、計画的に作成する。	【達成状況】 ・フラワープロジェクトや花壇の整備、教室内外の掲示など環境整備を充実させたことにより、保護者の肯定的回答 95.3%と目標数値を達成することができた。 B 【次年度の方針】 ・今年度に引き続き、フラワープロジェクトを実施し、花壇、教室内の植物の世話を美化委員会と学年委員会を中心に学級ごとに分担し、生徒全員が主体的に携われるようにする。 ・校内の環境整備に努め、机椅子の修繕を行う。 ・各学年フロアの掲示物を計画的に工夫しながら作成していく。
B5 生徒は、交通ルールを守り、安全に登下校している。 【数値指標】全体アンケート 「教職員は、機会をとらえて交通安全に関する指導をし、生徒は交通ルールを守って安全に行動している。」→保護者の肯定的回答 85%以上	① 教師による登下校時の交通指導や見守りをより充実させる。また、交通安全教室を工夫するなどして、交通ルールの遵守・交通マナーの向上に努める。 ② 生徒の意識を高めるために、交通安全教室に外部指導者を招聘するなど、内容を工夫する。	【達成状況】 ・登校指導や外部講師による指導の強化を図っており、保護者の肯定的回答 85.1%と目標は達成したが、交通ルールを守ろうとする意識には、生徒間の差がみられる。 B 【次年度の方針】 ・年間2回の全体での交通指導を継続、さらに必要に応じた細かい指導の強化を図る。 ・教職員間でのルールの共有の徹底、登下校時の交通指導の強化など、生徒の交通ルール遵守の意識向上のための指導の強化を図る。 ・自転車置き場の管理について検討する。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・昨年度と比較すると、教職員、保護者、地域住民および生徒を対象とした全アンケート項目の中の多くの項目で、肯定的回答の割合が増加した。特に、保護者の肯定的回答が12項目で上昇している。最も評価が伸びた項目は、「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる」（前年比9.1ポイント増加）である。これは、学校の取組を、学校だよりやHP等を利用して積極的に発信した結果、保護者の理解をより多く得られたものと考えられる。
- ・肯定的回答の割合が昨年度と比較して減少したのものもあるが、わずかな数値の変動であり、また、減少してはいるものの数値が85パーセントを超えているものもあり到達目標を達成しているものが多い。
- ・今年度は生徒のアンケートで数値が上昇している項目が多い。生徒一人一人の自己肯定感が高いのは、望ましい傾向であるが、現実の生徒の姿を見ると、教職員の認識とのかい離が大きいものがある。生徒一人一人が自己を厳しく振り返る必要がある。
- ・教職員のアンケートで、あいさつと言葉遣いに関する項目の評価が、昨年度同様、低い数値である。「生徒は、時と場に応じたあいさつをしている」（72.9パーセント 前年比5.8ポイント減少）「生徒は、時と場に応じた言葉遣いをしている」（50パーセント 前年比1.1ポイント上昇）これは、本校の大きな課題としてあげられる。

・あいさつに関しては、地域住民による評価では、１００パーセント肯定的な回答が得られており、生徒の肯定的な回答も８９．７パーセントを達成しているが、我々教職員は、ただ単にあいさつができるという状況から時と場に応じて、心を込めた丁寧なあいさつができるようになってほしいという願いを持っている。あいさつは人と人をつなぐ潤滑油のようなものであり、時と場に応じたあいさつができるようになることは、生涯にわたって大きな財産となるものである。次年度も重点課題として取り組んでいきたい。

・言葉遣いについては、地域住民、生徒の肯定的回答はいずれも８０パーセント以上の数値であり、保護者の肯定的回答は、７９パーセントだが、教職員の肯定的回答は５０パーセントと、半数が課題が多いととらえている。生徒の日常の言葉遣いは適切であるとは言い難い。言葉遣いが乱暴なだけでなく、相手の気持ちや立場を考えない心ない言葉が飛び交う場面も多くある。この状況を改善するためには、学校の全教育活動を通しての教員の指導が必要であることは言うまでもないが、生徒会活動等を通して、生徒相互の自治的な活動を推進していく必要がある。また、生徒に範を示すためにも、教職員自身も時と場に応じた適切で丁寧な言葉遣いをする必要がある。まずは、教職員が正しい現状認識をするとともに自覚を高め、言葉遣いの指導を行っていくようにする。

○・小中一貫教育に関する取組では、本校は陽西地域学校園として、小中一貫教育のグランドデザインを作成して、キャリア教育をはじめ学力向上や学校生活適応など、さまざまな分野で小中一貫の取組を推進しているので、昨年に続いて教職員と保護者、地域住民の評価が高かった。しかし、生徒の肯定的回答はやや低かった（７２．５％）ので、諸活動の目的を生徒がよくわかるように指導していきたい。小中一貫の取組の更なる充実を図っていききたい。

・学校独自で設定した５項目全ては、ほとんどの項目で昨年に続いて高い評価が得られた。本校で取り組んでいる学力向上のためのさまざまな取組や、フラワープロジェクトなどの環境美化の取組が浸透し、保護者や地域住民の理解が得られていると考える。交通ルールの遵守については、課題残るので、安全な登下校ができるよう、指導を強化していきたい。来年度もさらに、本校の特色ある教育を推進していきたい。

6 学校関係者評価

- ・生徒は、落ち着いた雰囲気だまじめに学習に取り組んでいる。
- ・校内であいさつをする生徒が多い。
- ・生徒は、体育祭や文化祭などの行事に協力し合いながら積極的に参加している。
- ・学校の花壇にはいつも花が咲き、校内の掲示物なども工夫した内容できれいに整えられており、環境がすばらしい。
- ・生徒は、地区体育祭や、公園の落ち葉掃きなど、地域のボランティア活動に積極的に取り組んでいてすばらしい。地域住民との交流を深める場としても有意義である。今後も、継続してほしい。
- ・先生方は、熱心に学習指導をしている。学校の授業以外にも、さまざまな学習の場を設定して生徒の学力向上を図っており、すばらしい取組だと思う。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

総じて、生徒は学習や生活面において安定した生活を送っており、学校生活にも活気が見られ良好な状態である。しかし、個々の項目を見ていくと課題も見られるので、今年度の実践の成果と課題を十分に検証して、来年度につなげていきたい。

- ・生徒が主体的に活動できる場を意図的に設定することで達成感や自己肯定感を得られるような集団づくりに努める。
- ・不登校（傾向を含む）や、不適応（傾向を含む）の生徒が減少するよう、引き続き支援体制の強化と関係諸機関との連携を図る。
- ・さまざまな学力向上のための取組が成果を上げているので、更に工夫改善して取組を強化する。
- ・生徒指導を充実させ、規律ある学校生活ができるようにする。
- ・いじめの未然防止に向けたさまざまな取組を充実させる。特に、いじめ根絶集会などの生徒の主体的な活動を支援して、いじめのない（早期発見、早期対応ができる）学校づくりを進める。

○・あいさつをより一層定着させるとともに、小学校と連携を深め、広げていく。また、時と場に応じたあいさつができるようにする。

○・陽西地域学校園の小中一貫教育グランドデザインに基づく取組の充実を図る。

- ・ボランティア活動の充実を図り、地域に貢献できる生徒を育成する。
- ・本校の特色ある取組を、さらに継続、拡充していく。
- ・「開かれた学校」を目指し、保護者や地域住民が学校の教育活動を参観する機会を増やすとともに、学校ＨＰ等を利用して積極的に情報を発信して学校への理解と協力が得られるようにする。